

フランス語検定

法学部 中尾 浩

英語ほど多くはありませんが、日本で受験できるフランス語の公的な検定試験は4つあります。まず第一は仏検、次に DELF、三番目が TCF、最後が TEF です。このうち、最後の TEF は受験会場が東京と大阪だけで、わざわざ愛知県から受験に行くのは遠いので、その他の3つについて紹介します。

まず第一の通称「仏検」、正式名称「日本フランス語検定試験」は1981年から日本で行われているフランス語力をはかる試験で、30年以上の伝統があり、日本で一番ポピュラーなフランス語の検定試験でしょう。今の愛知大学のカリキュラムから考えれば、1年間しっかり勉強すれば5～4級には合格できると思います。もし2年生になってフランス語応用も受講したり、その他のフランス語会話関係の授業などを受講していれば、6月または11月の試験で4～3級の合格も可能だと思います。仏検合格を目指して独自に勉強をすれば、おそらく2年目の11月あるいは3年目の春にはほぼ確実に3級までは合格できるだろう、というのが大まかな指導の方針です。教える側としても3級まで合格してくれば御の字で、3級を持っていれば短期フランスセミナーでもオルレアン大学への長期留学でも何とかこなせるレベルだと思います。問題はその先で、準2級、2級にはなかなか合格できません。これは他の大学の例を見ても難しいようなので、愛知大学から恒常的に準2級以上の合格者が出るような指導ができればなあと思っています。

次は DELF (デルフと発音します) ですが、こちらはフランス教育省によるフランス語の

免状で、正式名称を Diplôme d'études en langue française と言い、実は DELF 以外に、全くの初心者向けの DILF (Diplôme initial de langue française) と高度な実力が求められる DALF (Diplôme approfondi de langue française) と呼ばれるものがあります。さらに DELF の中も5つに分類されているという複雑な仕組みですが、ほとんどのフランス語圏の大学で勉強するためには一般 DELF (DELF tous publics) の A1 から B2 のどこかの級に合格していることが求められます。ちなみに、愛知大学が提携を結んでいるオルレアン大学は A1、パリ大学(デイドロ校)は B1 を目安としています。こちらはフランス政府公認だけあって、試験の指示も問題もすべてフランス語で日本語はどこにも一切書かれていませんし、放送でも流されません。いきなりでは面食うだけなので、事前の準備がかなり必要です。

大まかな目安としては DELF の A1 が仏検の3級レベル(もう少しハードルは高いかなと思われ)と考えられているので、途方もないレベルではありません。したがって仏検の3級以上に合格した人は、ぜひ DELF にもチャレンジしてほしいと思います。履歴書の資格欄に「DELF (フランス政府公認資格) A1 合格」と書けたら、かっこいいですよ!

最後に TCF (テー・セー・エフと発音します) です。こちらの正式名称は「Test de connaissance du français」で、これもフランス教育省のフランス語学力試験です。こちらは英語の TOEIC などと同じく、スコアで結果を知らせてくれますので、合格・不合格ではありません。大まかな目安としては TCF の 100 点から 199 点が DELF の A1、以下、100 点刻みで、A2, B1 と対応しているとみなされています。

このところ、愛知大学のフランス語学習者の意欲が高まってきて、2013年の春には DELF

の試験に数名が挑んでいます。また仏検も各自の目標に応じて多くの学生がチャレンジしています。せっかく習い始めた英語以外の新しい外国語です。仏検や DELF 合格を目標にして一緒に頑張りませんか？

仏検を受験して

文学部 2年 杉田 竣祐

私は昨年の秋に仏検を受験しました。私が仏検三級合格に至った勉強法などを書いていきたいと思っています。

仏検の勉強には大学の教科書の他に、文法の参考書一冊と単語集を一冊使いました。参考書は駿河台出版社の新・リュミエールを使いました。文法事項と例文、練習問題が載っていて、これを一通り憶えれば三級で出る文法は殆ど分かるようになると思います。一年次に仏検三級を受験する場合は、大学の授業でまだやっていない所も自分で勉強しなければいけないので、参考書があると便利だと思います。授業より先に勉強して、ある程度理解してから授業を受けると理解もより深まるのでお勧めします。

単語集は、仏検の級ごとの単語がまとめられているものを使いました。試験に出たのは日常的に使う簡単な単語が多かったので、基本的な単語を正確に憶えることが高得点に繋がると思います。

参考書や単語集で憶えるだけでなく、実際に憶えたことを使ってみると良いと思います。例えば、身の回りの物をフランス語に訳してみたり、時計を見たときフランス語で時間を言ってみたりすると良い練習になると思います。外国人の先生と話をしたり、友達と会話の練習をするのもとても効果的だと思います。また、試験

にはリスニング問題もあるので練習しておくの良いです。インターネットにリスニング教材を公開しているサイトもあるので利用すると良いと思います。

語学検定は、自分の語学の能力を知ることができますし、学習のモチベーションも上がると思うので積極的に受験することをお勧めします。



中検4級、3級への挑戦 発音問題をクリアしよう

国際コミュニケーション学部

塩山 正純

外国語の学習で、資格はゴールではなく、あくまでチカラ試しですが、例えば中検合格を目指して必死に勉強するうちに結果として中国語のチカラが身に付くこともあります。ですから、検定に一所懸命になるのも悪いことではありません。今回は中検の得点アップのカナメでありながら、多くの学習者が苦手意識をもっている筆記試験の発音問題について考えてみましょう。

愛大で第二外国語の中国語は、1年生で週2時間、学部によっては2年生でも週1、2時間の授業があります。中検は「日本人が外国語として中国語を学んだ到達度」を測る試験で、中検HPの各級の認定基準は、4級が「一般大学の第二外国語における第一年度履修程度」、3級が「一般大学の第二外国語における第二年度履修程度」となっています。恐らく最初に挑戦する4級は1年生の勉強を終えたか、その一歩手前、それから3級は2年生の勉強を終えたあたりが一応の目安になります。

皆さんも経験があると思いますが、恥ずかし